

創建

そうこん

2003・7・7 VOL.38 NO.1 (通巻111号)

巻頭言／浅里和茂・1
 「博士への道」・2～3
 大学院生のプロフィール・3～4
 日本建築学会第48回東北支部研究報告会・5
 平成16年度卒業研究テーマ・6～8
 平成15年度卒業研究受理者・8～9
 学術論文・研究発表・10
 新任の先生・11
 教室ニュース・11
 教職員名簿・12

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

21年前にウィリアム ギブスンが著した寓話は、ひとつのムーブメントを起こしたが、誰も現実に起こりうとは思わなかった。いま、ウォシャウスキー兄弟の撮ったフェアリーテールは、以前より違和感無く受け入れられ、その一部分はひょっとしたらという雰囲気さえある。アイがエージェントに、モリィがトリニティに変わり、CGも劇的に進歩した。そのおかげか、パンクは棘がとれてパンクではなくなった。奇妙なのはジョニーもネオも同じ役者だということ。

2003年5月26日18時24分ころ、宮城県北部の太平洋沖、深さ70kmを震源とするマグニチュード7.0の三陸南地震が発生しました。幸い25年前の宮城県沖地震のような大きな被害はありませんでした。その理由としては、都市部から震源が離れていたことと宮城県沖地震を契機に策定された新耐震設計法により建築物の耐震性が向上していたことなどが挙げられると思います。不謹慎な言い方かもしれませんが、新耐震設計法の貴重な実証の場となったことは確かです。地震のメカニズムとしては、北米プレートに潜りこむ太平洋プレートの境界部分の破壊ではなく、太平洋プレート内部の破壊によるものでした。通常、一度地震が発生すればエネルギーが開放されて地震危険度は下がりますが、今回の震源は宮城県沖地震の震源域からはなれているため、危険度は下がっていません。今後20年間の発生確率は80%以上となっていますから依然として注意が必要です。

ところで、ここ数年テレビの地震速報が多くなったと感じていないでしょうか。日本全国のどこかで地震による揺れを感じると、発生から数分のうちにまず地域の震度が発表され、さらにその数分後、より詳細な震度が報道されます。これが可能になったことには2つの要因があります。1つはそれまで人間の感覚に頼っていた震度の測定を機械化したこと、もう1つはこれらの測定器が気象庁とネットワークで結ばれたと

いうことです。

早い時期に地震動の観測とネットワークを結びつけたシステムとしては、平成4年3月からJ R東海が東海道新幹線の運行制御に使っているユレダスがあります。ユレダスとは地震動早期検知警報システム(UrEDAS: Urgent Earthquake Detection and Alarm System)のことで、地震の主要動である横揺れ(S波)より先に到達する縦揺れ(P波)を検知して、コンピュータで地震の規模や震央位置を推測し、送電を停めることで新幹線を緊急停車させます。

気象庁ではさらに進んでJ R総研と共同で「ナウキャスト地震情報」を実用化にむけて研究中です。通常、震源やマグニチュードの決定は、地

ネットワーク社会に 生きるために

浅 里 和 茂

震による揺れが治まってから行われていましたが、「ナウキャスト地震情報」では、揺れている最中からこれらの計算を始めてしまおうというものです。J Rのユレダスと同様にP波が最初に到達した観測点の揺れの情報から地震の諸性質を推定します。その後、複数の観測点にP波が到達すれば複数の揺れの情報が得られ、精度・信頼度が高くなり、震源、マグニチュードさらには各地の震度も予想できるようになります。これらの情報を本格的な横揺れ(S波)が到達する前に、交通機関、発電所、プラントなどに提供できれば、安全に停車させたり、運転を停止したりできます。日常生活でもテレビやラジオの緊急放送で「まもなく大きな揺れが予想されます。机の下などに隠れてください。」と流れるかもしれません。高速なネットワークと処理システムがあればこそ実現可能な近

未来の地震対策といえるでしょう。

さて、建築に目を転じると、構造解析にコンピュータを利用することは、以前から一般的に行われてきましたが、最近では構造以外のさまざまな分野でもネットワークとコンピュータがあたりまえのように使われています。例えば建築CALS/ECというものがあります。CALS(キール)とは「Continuous Acquisition and Life-cycle Support」の略で日本語訳は「生産・調達・運用支援情報システム」で、ECは「Electronic Commerce」の略で「電子商取引」の意味です。建築の企画から施工さらに保守にいたるまでの情報を電子化して流通させることにより、完成までの期間短縮、生産性の向上、コスト削減などを図ろうとするものです。企画・設計ではCAD、確認申請もFD提出があり、図面の電子納品、公共工事での電子入札、材料やサブコンの電子調達など、竣工までの各段階では情報化は進んでいるものの、一貫とした情報の流通には至っていません。そこまでは、CADや文書データの交換規格の標準化が必要になりますし、会社の規模によらず業界全体としてネットワークとコンピュータの使用が前提となります。

コンピュータが計算だけするマシンから、それ以外のさまざまな情報を操作するマシンへと変貌し、ネットワークが張り巡らされて自宅でも常時接続できるようになると、否が応でもこれらを使い倒す術を身に付けなければ社会では認められなくなります。さもなくば単に使われるだけになってしまうのです。手元にあるパソコンがゲームやネットサーフィンだけではあまりにももったいないのです。何かを習得するには努力が必要で、面倒くさくて、それはパソコンも同じですが、身に付けたものは、思わぬところで役に立ちたいかもしれません。

神林長平によれば、「踊っているのだから、踊らされている。」のだそうです。さて、あなたは踊りますか、それとも。

(助教授)

「博士への道」 シリーズ No.3

博士論文：プラスチックコンクリート海洋構造部材の力学的特性に関する実験的研究
授 与 校：日本大学 昭和50年11月

教 授 岩 崎 博



この企画シリーズも三回目、付け加えることも少ないと思いますが、つたない自分史を通じ、感想を述べさせていただきます。

表題の博士への道は、通常、①大学院博士後期課程に進学し、完成させる「課程博士」及び、②社会人として企業の「研究部門」等

に在籍し、研究開発に従事される方が必要に応じ取得される「論文博士」の正統的とでもいえる方法と、③フツの技術者やサラリーマン、行政職の公務員、主婦などが余暇をさいて、自己啓発や当面の業務に不可欠ではないが、資格取得の一つとして挑戦される「論文博士」の三つのタイプがあると思います。私のケースは、比較的取得される方は少ないが、生涯教育の一環としてこれから増えそうな、③の道に近いもので、①、②に比べ取得者の数だけ、多様な経過がありそうです。

話は変わりますが創建の前号（110号）、卒業記念号をご覧になりましたか……。各先生から卒業生に向け、長い経験に裏打ちされたメッセージが掲載されておりました。私も興味深く拝見いたしました。見方によっては、社会人として、物事を成就させる極めて有効な方法論が凝縮されているようでもありました。先生方のキーワードを勝手に理解し、並べてみますと、「出会い・環境移行」→「人間関係・周波数」→「チャンスを最大限に利用しろ」→「健康も実力の一つ」→「気と力」→「奢らず工夫」→「ハイパーコンプレックス能力」……とあり、身に余ることや覚えのあることもあり、その内のいくつかを着実に実行すれば大概のことは達成可能かと思えます。以下、私の小さな体験とこれらのキーワードをすり合わせ、進めてみる。

私が卒業した頃も、今日と同様、不透明な世相でしたが、幸にも、建設省（現、国土交通省）に採用になりました。建築部門の採用者は、住宅・都市政策を担当する住宅局か都市局、研究部門の建築研究所（建研）または、都市規模の施設や公共建築の企画、設計から維持管理までを一元的に行う営繕局のいずれかに希望にもとづき配置されます。当方は、やや自信のあった建築設計で将来を考えておりましたので、多くの業績と人材を擁していた営繕局を迷うことなく選定、局の広角的な人材育成方針により、最初は希望の計画設計、次いで→構造設計→工事監理・保全→企画調査→またもとの計画設計のポストに環境移行し、自分では気の付かない潜在能力をうまく活用されながら、単に建築設計者としてだけでなく、より総合化されたコンプレックス能力を付与されつつ、多

様な市民ニーズの接点で、常に事業の費用対効果が求められる企画者やプロジェクトリーダーとしての日々をも過ごし、後に、この経験が役立つことになる。また、構造設計担当の頃は、国として、最初の部類に属する振動解析を経済産業省の旧館新築に適用することになり、およそ学生時代には縁遠かった理工学部に加藤渉先生や西村敏雄先生の指導を得、今日に至る人間関係の原点の一つになりました。

丁度、十年の節目を迎えた頃、行政建築家として多少の自信がついた矢先、上司から、建設省3研究機関（国土地理院、土木研究所、建築研究所）個別の基礎研究を束ね、本省・学会・民間の緊密な連携のもと実施される通産省型の大型プロジェクト創設（現、総合技術開発プロジェクト）を聞かされ、他人事かと思っていたら、実は、テーマが二つあり、一つは、新耐震設計法の開発、もう一つは、海洋構造物の建設技術に関する研究開発で、局あって省なしと言われていた縦社会のなかで、後者のテーマのコーディネーターと3機関境界領域の研究開発も併せ行うよう指示され、期間は長くて5年、帰任後のプロジェクトまで言われ、若干、途方にくれたものの、チャンスは最大限に利用しろ……との前掲のキーワードがよぎったのか、やるなら万事、積極的姿勢のほうが実り多いこともいくつかの学習経験を経て分かっておりましたので、喜んで引き受けることにしました。しかし、「海洋開発」に関わる知識に乏しく、赴任先の建研と行政サイドの営繕との人事交流はそれまでほとんどなく、研究内容も承知しておりませんでしたので、着任するまでの期間、発表文献を読みあさり、省内、海洋土木の専門家の意見を参考に、プロジェクトの骨格づくりを進めました。その間、海洋開発は先行していた宇宙開発よりも困難な問題が山積していること、造船や港湾土木施設を除いては、構造物の建設技術に関する技術開発が極めて少ないこと、官学民の研究組織づくりも立ち遅れていることなどが見えてまいりました。一方、省内では、船舶を長期間係留し、居住や商業施設として利用するケース、海中展望等の観光施設の建設も活発化し始め、建築基準法との関連、安全基準の策定が急務となりました。

このような背景のもと、プロジェクトは始動しはじめました。当時、建研には、学会を代表する人材が多数在籍しておりましたが、さすが創生期の海洋プロジェクトに参加してくれる研究者は少なく、その中で、終始ご指導いただいたのは、土地問題と空間価値に明るい早川和男（後に神戸大）、耐震構造以外に海洋構造物についても海外客員教授として活躍されていた尾崎昌凡（後に千葉大）と省内のみならず対外的にも最先端の研究者とし

てつとに知られていた大濱嘉彦（当時、無機材料研究室長）の3氏でした。大濱先生は、「健康も実力の一つ」を標榜されているとおり、大型プロジェクト進行過程により派生する様々な事務処理や大蔵省への予算要求書の作成、研究組織づくりも迅速かつ精力的に対応され、健康の根源は、タフな知的体力の質と量にあることを気付かせてくれました。

当方は、多くの研究者が参加する研究開発を、計画どおり進行させるコーディネーターの役目と自らは境界領域の研究を進めなくてはなりません。まず着手したのは、海岸線を有する国内3000をこえる市町村の海浜ならびに海面利用計画の調査、引き続き海岸線の空間価値による分類でした。そんなおり、理工の学生であった今の出村先生と偶然出会い、以降、被験者を引率しての調査やデータ作成に献身的なご協力をいただいた。さらに、構造物に関しては、研究課題検討のため、海上都市の人工地盤となる浮函基礎（半潜水型）ユニットの試設計を造船技術者の協力を得て行い、材質は一般的には鋼材ですが、ここでは、大濱先生開発のポリマー含浸コンクリートで、台風時波浪による動揺が最小となるような形体、上段部15m、下段部20mの直径、高さ80m、中空2段浮函部材の4脚によるデッキ支持とし、スパンは一辺55m、想定上載荷重8万トンで設計完了、一ユニットとしては大きなスケールになった。引き続き、1/50の模型を海洋で常時水平に保持できる部材それぞれの製造方法（精度によって容易に傾斜する）を検討し組立てた。……余談ですが、この原稿を依頼される少し前、不思議な経路をたどり9号館の窓外にその一部が戻っております（写真）。さて、この模型が海洋波浪中でどのような挙動を示すかの水槽実験が必要、模型寸法が通常の船舶に比べ大きく、石川島播磨重工業㈱（IHI）横浜造船所的大型水槽を篤志により借用し、造船関係者等が注視するなか安定実験を行い、良好な結果を得ました。しかし、海中生物の部材付着による波浪の影響など問題点も顕在化、さらに各種材料を水深別に海洋暴露を行うことになり、こちらも環境劣化外力が常時測定されているIHI呉造船所の施設を借り受

け、生物付着状況の長期観察を実施しました。これらの成果は、順次、建築研究報告やBRI Research Paper等の政府刊行物、出版物、論文投稿などとして公表されていきました。

軌道に乗った頃、サラリーマンの常として、元職に帰任の通知を頂き、後ろ髪を引かれる思いでしたが、そこは定石に従い、直ちに切り替え、首都移転の一環として関係してきた筑波研究学園都市建設プロジェクトの企画・設計スタッフとして参加することになる。……そんなおり、西村敏雄先生から考えても見なかった学位論文のお話をいただき、行政職との二足わらじで、研究のまとめを始めました。この間、当時の大濱、尾崎先生を始めとする実に多くの方々の好意と完成の年、除夜の鐘になるまでご協力いただいた往時の出村先生の関係性をぬきに提出は覚束なかったと思っている。

以上、比較的異動の多いサラリーマンが体験したケースを紹介させていただきましたが、冒頭に掲げた創建のキーワードに戻ると、その大部分に関係があったと思います。しかし、一つを強いて挙げれば、やはり「人間関係」か……。 「人間」は、所詮、字義のとおり、人の間（あいだ）で活（生）かされているのですし、完全な人もいないわけですから、補完しあう強固な人間関係の構築は、大きいと思う。また、特定のヒトを理解する場合、そのヒトの周囲をみれば推定がつくとの例えもあり、自己の現状にふさわしい出会いと人間関係が用意されているものです。新たな、より豊かな人間関係の構築に向け、絶えざる自己啓発が必要だと今も思料している。



浮函基礎模型（1/50）の現況

平成15年度 大学院生のプロフィール

①氏名 ②指導教員 ③研究テーマ
（敬称略） （仮：仮題）

■博士後期課程



- ①日比野 巧（博士3年）
- ②倉田光春、千葉正裕
- ③建築構造物の終局限界状態解析に関する基礎的研究



- ①増子 順一（博士2年）
- ②若井 正一
- ③室内構成要素としての身体尺度に関する計測研究



- ①田綿 隆文（博士1年）
- ②岩崎 博、出村克宣
- ③街並み構成材料の地域特性に関する調査研究



- ①秋吉 崇博
- ②若井 正一
- ③インテリアの機能に関する基礎的研究（仮）



- ①宇秋 哲也
- ②大濱 嘉彦
- ③耐水性せつこう硬化体の多機能化（仮）



- ①内田 崇
- ②狩野勝重、松井壽則
- ③既存戸建住宅団地の更新整備のあり方に関する調査研究



- ①大岡美紗恵
- ②千葉 正裕
- ③細長い平面形を有する建物・地盤連成系の振動解析に関する研究（仮）

■博士前期課程（修士2年）



- ①大谷 和泉
②若井 正一
③公共空間における待ち行列に関する人間工学的研究 (仮)



- ①押田 渉
②倉田 光春
③K-NET利用した福島県地域の地震動特性に関する研究



- ①小田切広和
②倉田 光春
③最適な住環境の設計 (仮)



- ①澤田 博人
②佐藤 平
③老人保健施設空間構成に関する研究



- ①新関 智尋
②狩野 勝重
③地方都市の既存市街地における居住環境整備に関する研究



- ①鈴木 悟
②出村 克宣
③硬化剤無添加エポキシ樹脂混入ポリマーセメントコンクリートの性質 (仮)



- ①清 利幸
②若井 正一
③インテリアエレメントとしての身体尺度に関する研究 (仮)



- ①武田 康
②若井 正一
③学習環境の高層化に伴う生徒の居場所等に関する研究



- ①土田 真一
②狩野 勝重
③地方都市における駅前広場整備手法に関する研究



- ①内藤 正純
②倉田 光春
③円形鋼管材の局部座屈挙動に関する研究 (仮)



- ①中澤 勤
②佐藤 平
③ひとにやさしいまちづくりに関する研究



- ①半沢 一寛
②佐藤 平
③ひとにやさしいまちづくりに関する研究



- ①平島 大輔
②佐藤 平
③住民参加のまちづくりに関する研究



- ①松本 真吾
②大濱 嘉彦
③再乳化形粉末樹脂を使ったコンクリート補修モルタルの開発



- ①宮本 勇一
②大濱 嘉彦
③自己防せい機能を有するポリマーセメントモルタルの開発



- ①森 一平
②大濱 嘉彦
③有機系廃棄物を用いた複合材料の開発



- ①諸岡 淳史
②大濱 嘉彦
③廃発泡ポリスチレン溶液を用いたポリマーモルタル及びコンクリートの開発



- ①横山 美香
②倉田 光春
③中間層免震建物に関する研究-下部構造を制震にした場合

■博士前期課程(修士1年)



- ①秋山 和仁
②黒田 浩司
③高強度材料を用いたRC造柱・はり接合部に関する実験



- ①浅野 直
②狩野 勝重
③まちづくり手法の実態調査と分析 (仮)



- ①伊藤 隆
②若井 正一
③インテリアの色彩イメージに関する人間工学的研究 (仮)



- ①大野 敦史
②倉田 光春
③遺伝的アルゴリズムを用いた構造デザイン (仮)



- ①具 本官
②大濱 嘉彦
③再乳化形粉末樹脂を用いた補修用ポリマーセメントモルタルの開発



- ①斉田 達也
②倉田 光春
③サスティナブルコンストラクションに関する基礎的研究 (仮)



- ①佐藤 皇
②濱田 幸雄
③中間山地における広域防災放送システムの開発と研究



- ①佐野 元紀
②佐藤 平
③老人保健施設の空間構成に関する研究



- ①十文字 聡
②若井 正一
③図書館における貸し出し業務に関する人間工学的研究 (仮)



- ①時崎 裕千
②若井 正一
③商業施設内における人間工学的研究 (仮)



- ①新鞍 俊介
②三浦 金作
③街路空間における探索歩行時の注視に関する研究



- ①西山 博之
②若井 正一
③木造建築物に関するインテリアイメージ



- ①濱田 育実
②若井 正一
③窓および商品としてのウィンドウ・トリートメントに関する研究 (仮)



- ①半沢 祥
②佐藤 平
③人にやさしいまちづくりに関する研究 (仮)



- ①宗形 亮
②倉田光春, 野内英治
③最適化構造モデルを用いた構造解析手法の提案



- ①山田 貴正
②佐藤 平
③障害者のためのスポーツ施設に関する研究

日本建築学会第48回東北支部研究報告会

日時：平成15年6月14～15日 会場：青森県立保健大学

ひとにやさしいまちづくりに関する研究

車イス障がい者の生活の背景と日常生活行動における街づくりの課題 ○中澤 勤（日大工学部）佐藤 平

ひとにやさしいまちづくりに関する研究

郡山市開成山公園における便所の現状調査と問題点について ○半沢一寛（日大工学部）佐藤 平

老人保健施設の空間構成に関する研究

機能訓練スペースにおける実態把握と問題点について ○深澤博人（日大工学部）佐藤 平

老人保健施設の空間構成に関する研究

レクリエーションの実態と問題点について ○佐野元紀（日大工学部）佐藤 平

アミューズメント施設における障害者の利用状況に関する研究

遊園地、テーマパークにおける利用状況把握と問題点について ○半沢 祥（日大工学部）佐藤 平

障害者のためのスポーツ施設に関する研究（その4）

屋内体育施設に対する障害者の意識と障害者への配慮の現状 ○山田貴正（日大工学部）佐藤 平

最適な住宅環境の設計

○小田切広和（日大工学部）倉田光春，野内英治

福島県公営住宅における地域特性と住戸内居住環境に関する研究—その4

会津地方2団地における居住者属性と住まい方について ○仲澤秀正（日大工学部）松井壽則，佐藤篤史

福島県公営住宅における地域特性と住戸内居住環境に関する研究—その5

会津地方2団地における住戸内居住環境について ○佐藤篤史（郡山女子大）松井壽則，仲澤秀正

既存戸建住宅団地の更新整備のあり方に関する研究調査—その2 経過年数による戸建住宅団地の問題点—

○内田 崇（日大工学部）松井壽則

身体を指標とした非接触領域の計測研究

その31. 動的人体計測から複合動作空間への展開 ○若井正一（日大工学部）

限定空間内の着座行動に関する人間工学的研究

前後座席間の通過歩行動作と新幹線自由席の着座特性について ○大谷和泉（日大工学部）若井正一

住民参加のまちづくりに関する研究—三春のケーススタディー—

○平島大輔（日大工学部）佐藤 平，有賀保二

土壁のタバコ煙吸着—放散特性

その25ガーネット混合土壁としっくい，スギ内装室内の室内空気汚染物質濃度

○岩崎 博（日大工学部）渡辺洋平，甚野光伸，鈴木貴智

土壁のタバコ煙吸着—放散特性

その26ガーネット混合土壁としっくい，スギ内装室内において

○鈴木貴智（新和建設㈱）岩崎 博，甚野光伸，渡辺洋平，菅野竜也

コンクリート下地を対象としたコケ吹き付けによる屋上緑化工法の開発

○出村克宣（日大工学部）菅野忠守

廃発泡ポリスチレン溶液を用いたポリマーモルタルの基礎的性質に及ぼす廃発泡ポリスチレン溶液濃度及び結合材量の影響

○諸岡淳史（日大工学部）大濱 嘉彦，雀 洛運

ホットプレス成形法によるもみ殻—廃発泡ポリスチレン複合体の基礎的性質

○森 一平（日大工学部）大濱 嘉彦，雀 洛運

亜硝酸型ハイドロカルマイトを含む硬化剤無添加エポキシ樹脂混入ポリマーセメントモルタルの性質

○宮本勇一（日大工学部）大濱 嘉彦

硬化剤無添加エポキシ樹脂混入ポリマーセメントモルタルの強さに及ぼす促進養生条件の影響

○大濱 嘉彦（日大工学部）高橋 忍

加圧成形による耐水性木毛せっこう板の曲げ性状

○宇秋哲也（日大工学部）大濱 嘉彦，熊谷慎祐

円形鋼管材の純曲げによる局部座屈解析による研究

○内藤正純（日大工学部）倉田光春，野内英治

中間層免震建物の軸方向力変動に関する研究

○横山美香（日大工学部）倉田光春，野内英治

高強度材料を用いたRC造柱・はり接合部に関する実験(1)

○秋山和仁（日大工学部）Sanjay Pareek，黒田浩司

連続繊維シートによるRC材のせん断補強に関する実験的研究—セメント系接着剤の検討—

○Sanjay Pareek（日大工学部）黒田浩司

平成16年度 卒業研究テーマ一覧

■材料工学

岩 崎 博 教授〔論文〕

1. 伝統的建築材料の評価及び建築生産に関する調査研究
近年、土壁はヒトの身心への安らぎの付与、健康的な居住環境構成材料としての優れた諸特性及び廃棄後のリサイクルが容易な材料として、再評価され始めている。このため、下記の調査研究を行っている。
- 1) 壁土の産出地別特性及び分類（壁土固有の構成因子である粒度組成、元素及び鉱物分析結果と土壁の基礎的性質である居住性、色彩、施工性からの総合化分類）
- 2) 壁土の諸性質の評価（有害空気汚染物質等各種外因による吸着・放散特性試験を行い、脱臭、調湿、調温、空気浄化作用、色調、変退色、ひびわれ等の検討）
- 3) 部材及び材料の改良開発（諸性質の向上、調合法の合理化等）
- 4) 設計・施工技術の開発（壁塗り動作・こて圧解析等からの自動化施工、設計仕様の標準化）
2. 建築及び建築材料の需給構造に関する研究
- 1) 新聞広告にみる戸建及び集合住宅の性能及び材料の採用動向調査
- 2) 建築設計者を対象とした建築材料の採用意向調査
- 3) 近未来建築物の諸性能に関する調査
3. 建築及び都市のマテリアルデザインに関する調査研究
- 1) 文学作家及び画家と造園材料の嗜好傾向事例調査
- 2) 街並み構成材料の地域特性に関する調査

大 濱 嘉 彦 教授〔論文〕

1. 有機物と無機物の複合による超高強度コンクリートの開発
2. 自己修復機能と自己防錆機能を持つインテリジェントコンクリートの開発
3. ビニロン及び炭素繊維補強モルタル及びコンクリートの性状及び用途開発
4. ポリマーセメントモルタル及びコンクリート中のポリマーとセメントの相互作用
5. 建築材料としての新素材の利用の可能性
6. ポリマーセメント複合体の開発（人工木材など）
7. 廃発泡ポリスチレンを用いたポリマーコンクリート及びモルタルの開発
8. セメント混和用ポリマーディスパーションの迅速性能判定法
9. ポリマーモルタル及びコンクリートの各種試験方法の開発

出 村 克 宣 教授〔論文〕

1. 建築材料用教材のビジュアル化に関する調査研究
2. セメント系傾斜機能複合材料の開発
3. RC造建築物用補修材料・工法選択システムの開発
4. ポーラスコンクリートに関する調査研究
5. 環境浄化機能を有する建築材料の開発

渡 澤 正 典 専任講師〔論文〕

1. コンクリート構造体の耐久性向上
2. コンクリート構造体の強度推定

3. 産業廃棄物のコンクリート製品への利用
4. オートクレープ養生コンクリートの品質改善
5. スラッジの有効利用に関する研究

■構 造

倉 田 光 春 教授〔論文〕

野 内 英 治 専任講師〔論文〕

1. 構造フォームに関する研究
自然界の進化アルゴリズムによって出現する**かたちとつよさの神秘さ**を自然観察あるいは、経験則に基づく感覚的・実験的構造学で考察し、コンピュータシミュレーションによる検証を行う。
2. 構造解析法に関する研究
各種構造物について、構造形態の最適化手法の開発や、弾塑性解析を行う。
3. 地盤・建物の地震時挙動に関する研究
振動応答解析法の開発あるいは、地震波入力による地盤および建物モデルの**振動実験**と地震応答解析を行う。
4. 空間構造（シェル・立体構造）に関する研究
単層ラチスシェルの座屈実験と解析のための**鋼管材の局部座屈**に関する実験および解析を行う。
5. 構造材料に関する研究
コンクリートおよび鋼材に関する実験および解析を行う。
6. 建築における情報技術の利用に関する研究
7. その他
免震・制震構造に関する研究、海洋構造物の解析に関する研究など各自あるいは、グループの希望テーマを面接の上決定し、それに沿って研究を行う。

黒 田 浩 司 教授〔論文〕

1. 柱・はり接合部の挙動、耐力に関する研究
 - 1) 高強度コンクリート及び高強度鉄筋を用いた接合部の実験・解析※
 - 2) 鉄鋼造接合部の実験・解析
 2. 耐震補強改修に関する研究
 - 1) 炭素繊維シートを用いたはりの補強実験・解析※
 - 2) その他改修法について実験・解析
 3. RC造及びS造用耐震診断のプログラム化
 4. その他、構造設計に関する研究
- ※ 1. 1)、2. 1) はパリーク専任講師との共同研究

浅 里 和 茂 助教授〔論文〕

1. 剛でない接合部をもつ鋼構造物の弾塑性解析
2. 鋼構造建築物の耐震性に関する研究
3. 鋼構造生産システムに関する研究
4. 建築とITのかかわりに関する調査研究
5. アナログメディアのデジタル化に関する研究

千 葉 正 裕 助教授〔論文〕

1. 建物の近似振動解析法に関する研究
2. 情報研究棟およびその周辺地盤における地震動観測
3. 細長い平面形を有する建物の多点常時微動測定
4. 郡山市域の地盤および建物の振動性状に関する研究
5. 建物・杭・地盤連成振動系解析に関する研究
6. 各種構造解析プログラムの開発

パリーク サンジェイ 専任講師〔論文〕

1. 高強度コンクリート及び高強度鉄筋を用いた接合部の実験・解析※
2. 炭素繊維シートを用いたはりの補強実験・解析※
3. 複合構造部材の研究開発

4. 複合材料の力学的性状に関する研究

※ 1.、2. は黒田教授との共同研究

■人間環境・インテリア・設計

若 井 正 一 教授〔論文・設計〕

〔論文〕

1. 人体・動作寸法と生活空間の関係
2. 人間の行動特性と環境心理学的諸問題
3. インテリラスペースと家具類の関係
4. ヒトの五感に関する人間工学的研究
5. 建築・インテリアの資格と職能
6. その他（新規課題は、相談に応じます）

〔設計〕

1. 意外性のある空間の提案
2. その他（学内外のコンペ課題など）

私たちの生活場面の中には、まだまだ解決すべき多様な問題が隠されています。論文、設計ともに問題意識を持って興味を抱くテーマを自ら定めることになります。

特に、論文は、各テーマともに人間環境系の視点から、住まいやオフィスなどの具体的な場面を研究対象にして調査または実験の両面から問題点を探求するものです。

また、設計は、既成の概念にとらわれない意外性のある空間などを独自に提案するもので、学内外のコンペなどに挑戦することを勧めます。

なお、テーマの内容によっては共同研究を認めます。環境心理学やインテリアなどに興味を持つ、意欲のある卒研生を歓迎します。

■環境工学・建築設備

濱 田 幸 雄 助教授〔論文〕

1. 音響透過損失測定におけるJIS残響室とISO試験室の違いの影響に関する研究
2. 音響透過損失測定における支持条件の影響に関する研究
3. 多層膜構造の吸音特性に関する研究
4. 福島県のサウンドスケープに関する研究
5. 構造体からの音響放射に関する研究

八 町 雅 康 専任講師〔論文〕

1. 燃焼器具と室内空気汚染に関する研究
2. ランドサットデータ利用に関する研究
3. アメダスデータのデータベース化に関する研究
4. ホームページ（設備用教材）の作成の試み
コンピュータ又はプログラム開発に関する希望があれば、相談の上、受入れます。

■建 築 史

狩 野 勝 重 教授〔論文・設計〕

1. 近世社寺建築の調査と研究
2. 東北地方における棟札調査
3. 文化的資産を活用した環境整備計画
4. 日本の都市のアイデンティティーについて
5. 地籍図の語る史的意味合
6. 自立型環境共生集落の形勢プロジェクト
7. その他、町づくりなど

〔設計〕設計については、論文の延長上に位置付ける

■建築計画・設計

佐 藤 平 教授〔論文・設計〕

清 水 公 夫 非常勤講師〔設計〕

〔論文〕

- 1) 特別養護老人ホーム・経費老人ホーム・デイサービスセンター等高齢者福祉施設のあり方に関する研究
- 2) リフォームヘルパー制度と住宅改造の実態調査
- 3) やさしいまちづくりの現状と未来像に関する研究
- 4) 障害者の職場環境の実態に関する研究
- 5) 高齢者の余暇活動と地域施設のあり方に関する研究
- 6) 学校の空き教室の使われ方に関する研究
- 7) 老人保健施設の空間構成に関する研究
- 8) 小学校のオープンスペースとその使われ方に関する研究
- 9) 教科教室型中学校の使われ方に関する研究
- 10) 盲・ろう・養護学校の使われ方に関する研究
- 11) その他研究テーマ自由・相談に応じます。

〔設計〕

卒業設計を選択する場合は、夏休み終了時までは各自テーマに沿ったデータを收拾する。設計はそのデータに基づいて設計を行う。

但しコンペ等に参加する場合はこの限りでない。

松 井 壽 則 助教授〔論文・設計〕

1. 高齢化社会に対応した住生活環境整備に関する研究
 - 1) 高齢化対応住宅に関する調査研究
 - 2) 高齢社会に対応した住宅施策展開に関する調査研究
 - 3) 身体障害者、高齢者などに配慮した住宅計画に関する調査研究
2. 高齢者に対する福祉サービス提供施設に関する研究
 - 1) 通所型住宅サービス提供施設に関する調査研究
 - 2) 特別養護老人ホームの計画に関する研究
 - 3) グループホーム（ユニットケアを含む）の計画に関する研究
3. 住宅・住宅地に関する調査研究
 - 1) 住宅団地の再生並びに更新に関する調査研究
 - 2) 公営集合住宅の時系列的変遷に関する調査研究
 - 3) 公営集合住宅の外部空間を核とした交流空間に関する調査研究
4. 児童・生徒に対する建築教育の可能性に関する実践研究
5. 保育園・幼稚園の計画に関する研究
6. 特殊学級、養護学校に関する調査研究
7. 上記テーマに関する設計

注意事項：希望者は、2年次、3年次設計課題をそれぞれ1作品、計2作品を持参し、設計の内容についての意見交換をおこない、選考の参考とします。

また、先方の都合により調査を行なうことになるので、講義に追われずに済むよう、できるだけ必要な単位は3年次生で修得しておいて下さい。

五十嵐 徹 非常勤講師〔設計〕

フィールドワークの結果を小論文にまとめ、その内容を設計提案する。

注意：これまでの設計課題を数点持参してください。

■都市計画・設計

有 賀 保 二 助教授〔論文・設計〕

1. 地方都市における地区レベルの町づくりの研究
2. 商店街構成に関する調査研究
3. 都市景観に関する研究
4. 地区計画設計

論文・設計とも基礎調査として現況調査、文献調査を行い、現況分析より問題点を抽出、その要因を探索し、その結論を論文又は図面として表現する。

テーマについては、ミーティングの進行状況の中より各自の具体的な研究テーマを決定する。

調査についてはグループで行い、論文、設計とも個人、又はグループでもよいが各自の分担を決め、まとめを行う。

土 方 吉 雄 助教授〔論文・設計〕

1. 都市の土地利用に関する研究
 - 1) 土地利用の更新過程
 - 2) 用途地域制
 - 3) 都市マスタープラン
 - 4) 地方都市中心市街地の再活性
2. 住宅・居住環境整備に関する研究
 - 1) 住宅需給
 - 2) 都心居住
 - 3) 子供の遊び環境
 - 4) 近代化遺産とまちづくり
 - 5) 住宅マスタープラン・HOPE計画
 - 6) 市街地整備事業の評価手法
3. 都市設計、まちづくり

*設計では、CADに興味のある人を特に希望します。

三 浦 金 作 助教授〔論文・設計〕

1. 探索歩行時の注視行動に関する研究（日本・外国）
はじめての都市空間で、来街者は何を手掛かりに空間移動をするのか探求する。

- 1) 都市空間把握について
- 2) 歩行行動について
- 3) 注視行動と脳波
- 4) 認知地図（スケッチ・マップ法）

2. 都市景観の研究（日本・外国）

これからの都市景観はどうあるべきなのか、景観からの都市づくりを模索する。

- 1) 都市景観のイメージと評価

- 2) 景観条例とまちづくり

- 3) 夜間景観について

3. オープン・スペースの研究（日本・外国）

都市のアメニティ施設としてのオープン・スペースのあり方を模索する。

- 1) 東京都A区のプチ・テラス（スモール・アーバン・スペース）
- 2) 大都市の広場公園
- 3) 子供の遊び場
- 4) 都市緑地・公園整備
- 5) 公開空地
- 6) 日本のオープン・スペース史
- 7) アメリカの都市広場

4. 西欧都市の研究

西欧都市の空間構成原理を探求する。現地調査も実施する。

- 1) 水都・ヴェネツィアの都市空間特性（イタリア）
- 2) ハンザ都市・リューベックの都市空間特性（ドイツ）
- 3) イタリア広場空間における人間の滞留行動について
- 4) 西欧都市史・建築史

5. その他の研究（日本・外国）

上記研究のほかに、興味のある研究テーマがあれば相談して下さい。

- 1) 商業施設の立地傾向について
- 2) アーバン・ビヘイバー（都市空間での人間行動特性）について
- 3) 歩行者空間（緑道、ショッピングモール、アーケード）の整備

6. 都市デザイン・まちづくり・建築設計

設計・デザイン希望者は、2・3年次の課題図面を持参して作品を説明して下さい。

平成15年度 建築学科卒業研究 受理者一覧

学生番号	氏 名	指導教員	学生番号	氏 名	指導教員	学生番号	氏 名	指導教員
122001	會田 直也	狩野教授	122024	岩崎美由紀	倉田教授	122048	岡田 吉伸	倉田教授
122002	青木由華子	黒田教授	122025	上野 哲也	清水講師	122049	岡安健太郎	有賀助教授
122003	秋山 正人	八町講師	122027	内山 翔子	若井教授	122050	小川 真平	三浦助教授
122004	浅沼 美雪	若井教授	122028	江口 成幹	黒田教授	122051	小倉 麻美	倉田教授
122005	我妻 貴良	佐藤教授	122029	榎原 奈	浅里助教授	122052	小原 一晃	岩崎教授
122007	荒井 純平	佐藤教授	122030	海老原直久	有賀助教授	122053	柿崎 恵	八町講師
122008	荒井 里佳	若井教授	122031	遠藤真由佳	岩崎教授	122054	角野 仁美	狩野教授
122010	有田 知和	狩野教授	122032	遠藤 泰司	佐藤教授	122055	笠原 憲	黒田教授
122011	飯口 典子	黒田教授	122033	大河原修一	出村教授	122056	春日 千尋	千葉助教授
122013	池上 恵	倉田教授	122034	大木 淳平	濱田助教授	122057	加藤 裕史	S. バリーク講師
122014	石井 崇治	土方助教授	122035	太田 浩市	松井助教授	122058	加藤 有希	若井教授
122015	石澤 雄馬	有賀助教授	122036	太田 大介	黒田教授	122059	上村 貴広	黒田教授
122016	石田亜紀子	土方助教授	122037	太田 将弘	大濱教授	122060	神山 知則	岩崎教授
122017	石田 圭司	黒田教授	122038	大塚 陽子	有賀助教授	122061	軽部 広樹	岩崎教授
122018	石原 昌亨	狩野教授	122039	大槻 満	有賀助教授	122063	川瀬 兆哉	佐藤教授
122019	稲垣 愛	土方助教授	122040	大貫 裕子	土方助教授	122064	菅野 圭太	有賀助教授
122020	稲見 堅太	黒田教授	122041	大沼 宏之	岩崎教授	122066	木下 祐介	松井助教授
122021	井上 純	八町講師	122043	大橋 崇志	濱田助教授	122067	北村 英之	八町講師
122022	今泉 裕紀	三浦助教授	122044	大橋 秀紀	浅里助教授	122068	木戸 睦子	土方助教授
122023	岩佐 亜弥	松井助教授	122046	大和田隆之	岩崎教授	122069	木村伊知郎	S. バリーク講師

学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員	学生番号	氏名	指導教員
122070	木村 友明	若井教授	122131	高瀬 暁子	倉田教授	122194	星加 紘子	三浦助教
122071	木村 泰	八町講師	122132	高梨 秀樹	若井教授	122195	保科 孝好	千葉助教
122072	木村 吉寛	有賀助教	122133	高橋 敏紀	倉田教授	122197	堀田 匠吾	狩野教授
122073	清川 智	千葉助教	122134	高橋 桃子	三浦助教	122202	増井 正孝	濱田助教
122074	清田 剛	八町講師	122135	高橋 雄樹	土方助教	122205	松下 幸太	出村教授
122075	桐生 大作	有賀助教	122137	竹内亜紗美	三浦助教	122206	松田 香織	三浦助教
122076	日下部 純	土方助教	122138	竹見 康裕	倉田教授	122207	松田 順介	千葉助教
122077	國津 雄貴	松井助教	122139	田島 晴美	岩崎教授	122208	松田 典之	若井教授
122078	黒澤 睦	大濱教授	122140	立花 絵里	土方助教	122209	松村 拓哉	千葉助教
122080	小泉 博昭	有賀助教	122141	田所 美帆	三浦助教	122210	松村 健史	佐藤教授
122081	國分ちえみ	岩崎教授	122142	田中 七海	濱田助教	122211	松本 貴晴	八町講師
122082	小松 智也	有賀助教	122143	田中 元樹	松井助教	122213	三浦 公正	渡澤講師
122084	後藤 裕美	三浦助教	122145	田畑 剛	土方助教	122214	三木 隆真	佐藤教授
122085	斎藤 俊克	出村教授	122146	田向 美菜	倉田教授	122216	三谷 大輔	有賀助教
122086	斉藤 翔	有賀助教	122147	塚野 和馬	千葉助教	122218	御供 崇	清水講師
122087	酒井 豊勝	渡澤講師	122149	土屋 秀敏	倉田教授	122219	南 悟司	三浦助教
122088	坂本 卓也	濱田助教	122150	土屋 将昭	松井助教	122220	南川 崇	清水講師
122089	相楽 哲平	出村教授	122151	常田健太郎	出村教授	122221	本橋 範一	清水講師
122090	櫻井 祐則	倉田教授	122152	津吹 雄司	渡澤講師	122222	森田 健	濱田助教
122092	佐々木 健	渡澤講師	122153	寺島 大樹	濱田助教	122223	森田めぐみ	松井助教
122093	佐藤 衣織	S. パーク講師	122154	徳竹 誠	若井教授	122224	安田 史昭	土方助教
122094	佐藤 栄治	渡澤講師	122155	富田 真仁	千葉助教	122226	安本 隆志	S. パーク講師
122095	佐藤 健一	S. パーク講師	122157	仲川 博幸	土方助教	122227	梁取 由生	倉田教授
122096	佐藤 滋樹	濱田助教	122158	中澤 毅	土方助教	122228	矢吹 紘一	渡澤講師
122097	佐藤 貴晴	狩野教授	122159	中澤 英世	三浦助教	122229	矢部 達也	若井教授
122098	佐藤 輝幸	千葉助教	122160	中島 勉	三浦助教	122230	山 由香里	濱田助教
122099	佐藤 浩之	土方助教	122162	中島由香里	濱田助教	122231	山尾 圭右	千葉助教
122100	佐藤 優姫	千葉助教	122163	中野晃太郎	若井教授	122232	山形 仁美	若井教授
122101	佐野 康司	若井教授	122164	中村 慎一	倉田教授	122233	山口かおり	土方助教
122102	佐野 充啓	岩崎教授	122165	仲本 瑛	渡澤講師	122234	山口 直昭	若井教授
122104	仕田原崇嘉	倉田教授	122166	中山 昌幸	狩野教授	122235	山中 英邦	S. パーク講師
122105	清水 孝祐	倉田教授	122167	長尾 円晴	狩野教授	122236	山本 博子	土方助教
122107	下村 翼	有賀助教	122168	長坂 紘樹	狩野教授	122237	横尾優貴子	若井教授
122108	秀城 舞	若井教授	122169	西沢 洋平	狩野教授	122239	吉田 浩幸	倉田教授
122109	新聞 勉	S. パーク講師	122170	二宮 麻美	三浦助教	122240	吉野 弘泰	佐藤教授
122110	菅沼 芳貴	濱田助教	122173	野崎 浩平	狩野教授	122241	米田 喬一	濱田助教
122111	杉永 順子	松井助教	122174	野呂 隆太	八町講師	122242	若菜 純雄	千葉助教
122112	杉山 憲太	岩崎教授	122175	橋本 和彦	渡澤講師	122243	渡部 伸昭	佐藤教授
122113	杉山 学	狩野教授	122176	橋本 真一	濱田助教	122244	渡辺 秀一	浅里助教
112114	鈴木 次郎	狩野教授	122177	橋本 貴志	狩野教授	122245	渡邊 智之	三浦助教
122115	鈴木 崇	若井教授	122178	橋本 政治	有賀助教	122246	渡邊 靖之	清水講師
122116	鈴木 武	浅里助教	122179	橋本 隆一	岩崎教授	122248	和田 康弘	倉田教授
122117	鈴木 達也	浅里助教	122180	長谷川和人	狩野教授	122601	宇野 孝	出村教授
122118	鈴木 毅	浅里助教	122181	長谷川純子	土方助教	122602	恩田 敦史	出村教授
122119	鈴木 利徳	浅里助教	122182	林 秀光	岩崎教授	122603	国見 健吾	S. パーク講師
122120	鈴木 利也	若井教授	122183	原 尚子	松井助教	122604	小堀 まどか	若井教授
122121	鈴木 洋道	千葉助教	122184	原崎 巧	浅里助教			
122122	鈴木 浩哉	千葉助教	122185	半沢 沙季	松井助教	112056	加藤 祐希	S. パーク講師
122123	鈴木 康史	有賀助教	122186	平沢 理恵	濱田助教	112159	濱地 雄作	濱田助教
122124	関 裕次	濱田助教	122187	平澤 敬	倉田教授	112212	渡部 洋平	岩崎教授
122126	関根 浩高	有賀助教	122188	福島 啓介	浅里助教			
122127	関谷 絵美	三浦助教	122189	伏見 聡	土方助教	102179	前川 洋	若井教授
122128	瀬戸 敦	松井助教	122191	藤森 恭平	出村教授			
122129	曾根 一城	岩崎教授	122192	古川 安成	浅里助教	082103	佐藤 徹	松井助教
122130	田海 辰徳	千葉助教	122193	星 雄介	千葉助教			

学 術 論 文

注：届出があった論文

- Y. Ohama, “Challenges for Sustainable Use of Concrete-Polymer Composites in Japan”, Proceedings of the International Conference on Performance of Construction Materials in the New Millennium, Vol. 1, Elmaarefa Printing House, Cairo, Egypt, Feb. 2003, pp. 3-11.
- N. W. Choi, Y. Ohama and A. Moroka, “Influences of Mix Proportions on Properties of Polymer Mortars Using Waste Expanded Polystyrene Solution-Based Binders”, Proceedings of the International Conference on Performance of Construction Materials in the New Millennium, Vol. 2, Elmaarefa Printing House, Cairo, Egypt, Feb. 2003, pp. 1083-1092.
- N. W. Choi, Y. Ohama and I. Mori, “Effects of Filler Type and Mix Proportioning Factors on Basic Properties of Waste Wood-Waste Expanded Polystyrene Composites by Hot Press Moulding Method”, Proceedings of the International Conference on Performance of Construction Materials in the New Millennium, Vol. 2, Elmaarefa Printing House, Cairo, Egypt, Feb. 2003, pp. 1093-1101.
- Y. Ohama, Y. Miyamoto and H. Tatematsu, “Properties of Polymer-Modified Mortars with Nitrite-Type Hydrocalumite”, Proceedings of the International Conference on Performance of Construction Materials in the New Millennium, Vol. 2, Elmaarefa Printing House, Cairo, Egypt, Feb. 2003, pp. 1103-1112.
- Y. Ohama, “Recent Progress in Research and Development Activities of Polymer Mortar and Concrete in Japan”, Proceedings of the Fourth Asia Symposium on Polymers in Concrete, Kangwon National University, Chuncheon, Korea, May 2003, pp. 39-47.
- Y. Ohama and S. Matsumoto, “Effect of Type of Powdered Antifoamer on Properties of Polymer-Modified Mortars Using Redispersible Polymer Powders with Powdered Shrinkage-Reducing Agent”, Proceedings of the Fourth Asia Symposium on Polymers in Concrete, Kangwon National University, Chuncheon, Korea, May 2003, pp. 81-87.
- N. W. Choi, A. Moroka and Y. Ohama, “Properties of Polymer Mortars Using Methyl Methacrylate Solutions of Waste Expanded Polystyrene”, Proceedings of the Fourth Asia Symposium on Polymers in Concrete, Kangwon National University, Chuncheon, Korea, May 2003, pp. 105-113.
- Y. Ohama, Y. Miyamoto and H. Tatematsu, “Effect of Nitrite-Type Hydrocalumite on Properties of Polymer-Modified Mortars”, Proceedings of the Fourth Asia Symposium on Polymers in Concrete, Kangwon National University, Chuncheon, Korea, May 2003, pp. 115-124.
- N. W. Choi and Y. Ohama, “Development of New Polymer Mortars Using Styrene Solution of Waste Expanded Polystyrene”, Proceedings of the Fourth Asia Symposium on Polymers in Concrete, Kangwon National University, Chuncheon, Korea, May 2003, pp. 125-133.
- S. Kumagai, Y. Ohama and T. Ushu, “Development of Artificial Woods Using Fiber-Reinforced Lightweight Water-Resistant Gypsum-Based Composites”, Proceedings of the Fourth Asia Symposium on Polymers in Concrete, Kangwon National University, Chuncheon, Korea, May 2003, pp. 161-169.
- N. W. Choi, I. Mori and Y. Ohama, “Effects of Mix Proportioning Factors on Basic Properties of Rice Husks-Waste Expanded Polystyrene Composites by Hot Press Molding Method”, Proceedings of the Fourth Asia Symposium on Polymers in Concrete, Kangwon National University, Chuncheon, Korea, May 2003, pp. 263-272.
- 崔 洛運, 大濱嘉彦, 「ホットプレス成形法による廃木材-廃発泡ポリスチレン複合体の基礎的性質に及ぼす配合要因の影響」, 日本建築学会構造系論文集, No.567, May 2003, pp.25-31.
- 土方吉雄, 岩崎 博, 街並み構成材料の地域特性に関する調査研究-その2 積雪寒冷地及び標準地の業務中心地区における都市の空間価値と外装材料-, 日本大学工学部紀要第44巻第2号、平成15年3月
- 三浦金作, 門馬陽一, 東京都A区「プテラス」の空間構成と維持・管理について 密集市街地におけるオープン・スペースの整備実態に関する研究 その1、日本大学工学部紀要第44巻2号、平成15年3月
- 日比野 巧, 倉田光春, 細長い平面形を有する建物の立体振動解析 変位入力による微動応答解析、日本大学工学部紀要第44巻2号、平成15年3月

研 究 発 表

- 第57回セメント技術大会 日時：平成15年5月28～30日 場所：全共連ビル（東京）
・繊維補強耐水性せっこう複合体の曲げ性状

○宇秋哲也・大濱嘉彦・熊谷慎祐

新任の先生

非常勤講師 滝澤 雄三

担当科目：大学院・建築計画学特論Ⅲ
学部・建築計画Ⅱ



色々な“危機”説が流れ、先の見えな
い時代といわれる昨今です。そこで一言。
1963年に暗殺された米大統領 John F. Kennedy の言
葉です。When written in Chinese, the word “crisis”
is composed of two characters, one represents
danger and one represents opportunity. John F.
Kennedy はピューリッツァ賞を受賞しているだけ
あって数々の名言を残していますが、これもその一つ
といえます。John F. Kennedy は「危機」という漢字
は「危険」を意味する漢字と「好機」を意味する漢字の
二つから成っていると解釈しているのです。中国人や
日本人にとっては、「危機」には「好機」の意味は感じ
られないと思います。しかし、彼はキューバ危機の折、
「危機とは、危険と好機が共存しているもの」といっ
たのです。事実、彼はこの危機を乗り越えることで当
時のソ連首相フルシチョフと本音で話し合うことがで
き、結局キューバのミサイルは撤去されたのです。

また、米外交政策で手腕を発揮した Henry A.
Kissinger は、In crises the most daring course is
often safest. ともいっています。逆説的にいえば「虎
穴にいらずんば虎児を得ず」(Nothing venture,
nothing have.) ということでしょうか。

就職難だ！失恋だ！人生の危機だ！などと嘆いてい
る学生諸君、「ピンチの後はチャンスのみ」です。何
事にも全力でぶつかって下さい。

非常勤講師 松本 文夫

担当科目：大学院・環境情報統計学特論
空間デザイン学特論



早稲田大学の修士を出て磯崎新アトリエ
に10年間勤務し、1997年に独立しました。早
稲田では安東研究室の湯本長伯先生（現九州芸工大教授）に
ご指導いただきました。磯崎新アトリエでは京都コンサートホー
ルやオハイオ科学産業センター等の設計を担当し、京都に2
年半、米国に7ヶ月滞在しました。同アトリエを退職後、約4ヶ
月かけてヨーロッパ・中近東・北アフリカをまわり、またその後イン
ドや中国にも行きました。仕事や旅行で訪れた各地での体験
は、今でも自分の思考の原点になっていると思います。

独立後は建築コンペの応募に明け暮れていましたが、数年
前から建築だけでなく「情報空間」のプロジェクトも手がけるよ
うになりました。今年公開の沖縄県のデジタルアーカイブでは、
インターフェイス・システムのデザインを担当しました。ITの
普及によって人間の活動領域が情報世界に広がる中で、広い
意味での「アーキテクチャ」とは何かを考えていきたいと思っ
ています。建築の仕事には「問題解決」と「価値創造」という2
つの側面があると思います。社会的な要求・問題を解決しなが
ら、同時に新しい価値を提案すること。そのためには地域に根
ざした「生活者の視点」とともに、横断的・俯瞰的にものを見
る「旅人の視点」が必要だと思います。様々な生活・文化・環境・
人に出会う「旅」のような楽しさが建築にはあります。授業では
まず身近な場所の再発見から始めて、皆さんと一緒に環境に
対する考え方を少しずつ紡いでいきたいと思っています。

URL <http://www.plannet-arch.com/>

■大濱教授は、2月5日に日本放送
協会（NHK）からインテリジェント
コンクリートに関する取材を受け、
2月11日早朝に「おはよう日本一ま
ちかど情報室」の中で、「自己修復
素材」と題してテレビ放送された。

■若井教授は、福島県南建設事務
所より県南地域道路計画懇談会会長
を委嘱された。（3月20日）

■市岡助手らが執筆していた日本建
築学会編の建築設計資料集成拡張編
「物品」（丸善出版）は、4月1日に
発刊された。

■湯本非常勤講師は、産学連携学会
会長に選任された。（4月1日）

■若井教授は、私立大学情報教育協
会より建築学IT活用研究委員会
の委員長を委嘱された。（4月1日）

■市岡助手は、5月8日に福島県
より県環境影響評価審査会委員を委嘱
された。

■若林研究生は、第6回木材活用コ
ンクールにおいて日本木材青壮年団
体連合会会長賞を受賞した。（5月24日）

■土方助教授と市岡助手は、5月28
日に、福島県より福島県景観アドバ
イザーを委嘱された。

■高橋教授（兼担大学院）は日本イ

ンテリア学会会長に選任された。（5
月31日）

■大濱教授は、6月3日に、東京で
開催された、エポキシ樹脂技術協会
主催の講演会に出席され、「硬化剤無
添加エポキシ樹脂混入ポリマーセメ
ントコンクリート及びモルタルの開
発」と題して講演された。

■土方助教授は、6月5日、福島県
景観アドバイザー派遣事業の福島県
景観形成住民協セミナーにおいて、

教室ニュース

「魅力的な街並み景観創出に向けた
地域住民の合意形成について」と題
して講演した。

■大濱教授は、6月17日に、(株)日本
コンクリート工学協会主催の「循環
型社会構築におけるコンクリート産
業の役割と廃棄物のリサイクルに関
するシンポジウム」において、「廃
棄物のコンクリート材料への再資源
化研究委員会報告書」の概要を、研
究委員会委員長として発表された。

新任の職員



学科センター

小林まゆみ

4月に就職指導課から配属に
なりました。初めてのセンター
の仕事に戸惑うことも多く、先
生方にご指導を仰ぎながらも、
ようやく仕事に慣れてきたとこ
ろです。

少し、あたりを見回せるよう
になって感じたことは、建築学
の幅の広さです。こんな面白そ
うな学問を大学で余すことなく
貪欲に吸収し、また学生生活を
謳歌してください。

みなさんのお役に立てるよう、
一生懸命頑張りますので、よろ
しくお願いします。

建築学教室教職員名簿

2003. 4. 1 現在

■専任教員

教授	工博	岩崎	博彦	建築マテリアルデザイン	9号館	1階	024(956-8736)
教授	工博	大狩	嘉勝	建築化学	9号館	3階	(956-8739)
教授	工博	狩野	光浩	建築史	9号館	3階	(956-8749)
教授	工博	田中	春司	力学	16号館	2階	(956-8732)
教授	工博	倉黒	司	構造	16号館	1階	(956-8735)
教授	工博	佐藤	平宣	計画	16号館	2階	(956-8744)
主任・教授	工博	村井	克正	建築材料工学	9号館	3階	(956-8740)
助教	工博	里賀	和保	環境・インテリア	45号館	3階	(956-8750)
助教	工博	葉田	二保	造	16号館	2階	(956-8734)
助教	工博	方井	裕雄	画	9号館	3階	(956-8743)
助教	工博	濱土	幸吉	学	16号館	2階	(956-8733)
助教	工博	松井	壽金	画	16号館	3階	(956-8752)
助教	工博	三野	英雅	画	45号館	2階	(956-8751)
専任講師	工博	S. N. パリー	則治	画	45号館	2階	(956-8753)
専任講師	工博	澤岡	康典	学	16号館	2階	(956-8732)
専任講師	工博	渡市	典子	備	16号館	3階	(956-8741)
専任講師	工博			造	16号館	1階	(956-8747)
専任講師	工博			材	9号館	1階	(956-8731)
専任講師	工博			料	45号館	3階	(956-8750)

■大学院兼任・非常勤講師

兼任教授	工博	小嶋	勝志	地城計画	45号館	2階	(956-8753)
兼任教授	工博	高橋	鷹彰	域内計画	45号館	3階	(956-8750)
兼任教授	工博	根島	彰男	地建構造工学	45号館	2階	(956-8753)
兼任教授	工博	福神	曉勝	建築工学	16号館	2階	(956-8732)
兼任教授	工博	近藤	典夫	応用数学	16号館	2階	(956-8732)
兼任教授	工博	小滝	菅哲	応用数学	16号館	2階	(956-8732)
非常勤講師	工博	中澤	雄三	空間デザイン	45号館	3階	(956-8750)
非常勤講師	工博	長谷川	誠一	建築計画	45号館	2階	(956-8751)
非常勤講師	工博	古川	一徹	空間デザイン	45号館	3階	(956-8750)
非常勤講師	工博	松本	文夫	空間デザイン	45号館	3階	(956-8750)
非常勤講師	工博	湯本	長伯	環境情報統計	45号館	3階	(956-8750)
非常勤講師	工博			環境情報統計	45号館	3階	(956-8750)

■学部兼任・非常勤講師

非常勤講師	工博	阿部	直人	建築設計	45号館	3階	(956-8742)
非常勤講師	工博	五十嵐	徹男	建築倫理	45号館	2階	(956-8751)
非常勤講師	工博	小栗	治	建築人	16号館	3階	(956-8730)
非常勤講師	工博	小原	誠男	建築人	45号館	3階	(956-8750)
非常勤講師	工博	近藤	道宏	建築設計	45号館	2階	(956-8751)
非常勤講師	工博	佐久間	一夫	建築設計	45号館	3階	(956-8742)
非常勤講師	工博	佐藤	昭夫	建築設計	45号館	2階	(956-8751)
非常勤講師	工博	澤藤	篤彦	建築設計	45号館	2階	(956-8751)
非常勤講師	工博	清水	公隆	建築設計	16号館	2階	(956-8744)
非常勤講師	工博	外山	隆吉	鉄筋コンクリート	16号館	1階	(956-8747)
非常勤講師	工博	田中	マリ	建築設計	45号館	2階	(956-8751)
非常勤講師	工博	富村	基弘	建築設計	9号館	3階	(956-8749)
非常勤講師	工博	中橋	寛	建築設計	9号館	3階	(956-8743)
非常勤講師	工博	本郷	精仁	建築設計	16号館	3階	(956-8730)
非常勤講師	工博	二澤	一幸	建築設計	9号館	3階	(956-8749)
非常勤講師	工博	藤田	延美	建築設計	16号館	2階	(956-8732)
非常勤講師	工博	見谷	津子	建築設計	45号館	2階	(956-8751)
非常勤講師	工博	野見	嘉	建築設計	45号館	3階	(956-8750)
非常勤講師	工博	矢野	郎	造形	45号館	3階	(956-8750)
非常勤講師	工博	柳代	学	建築設計	9号館	3階	(956-8749)
非常勤講師	工博	陽田	秀夫	建築設計	45号館	2階	(956-8751)
非常勤講師	工博	渡部	和生	建築設計	45号館	2階	(956-8744)

■事務職員

教室事務	小林	まゆみ	(建築学科センター)	16号館	3階	(956-8730)
------	----	-----	------------	------	----	------------